

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

早期大腸癌 (2006.01) 10巻1号:56～57.

【下部消化管の緊急内視鏡】潰瘍性大腸炎(UC)の出血

佐藤龍, 石川千里, 金野陽高, 稲場勇平, 村松司, 高後裕

III. 症例

15. 潰瘍性大腸炎（UC）の出血

佐藤 龍, 石川 千里, 金野 陽高, 稲場 勇平, 村松 司

旭川医科大学第3内科

(〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL 0166-68-2462, FAX 0166-68-2469)

症例1：50歳代女性。UCで通院中に下血を訴え緊急内視鏡検査施行（S状結腸まで）。

写真の解説

Fig.1a：直腸に湧出性の自然出血を認める。

Fig.1b：同部位の水洗後の所見。不整形の地図状潰瘍を認め、介在粘膜はびまん性に浮腫状を呈す。

Fig.1c,d：S状結腸まで挿入したところ、広い地図状潰瘍が連続している。

症例2：70歳代男性。UC再燃に対しステロイド治療後、減量に伴い下血が出現し緊急内視鏡検査施行（S状結腸まで）。

写真の解説

Fig2a：直腸に類円形の潰瘍を認め、周囲粘膜には血管透見像が認められる。

Fig2b：同部位の色素散布像。類円形の潰瘍が多発しており、粘膜は易出血性。肛門側粘膜は浮腫状を呈す。

Fig2c,d：S状結腸は不整形の打ち抜き様潰瘍が多発し、周囲粘膜は浮腫状を呈す。

Fig2e：直腸の類縁形潰瘍からの生検にて、免疫染色上 Cytomegalovirus（CMV）陽性であった。

参考：Cytomegalovirus（CMV）感染の典型像

Fig3a:通常内視鏡像, 3b:色素散布像

不整形の打ち抜き様潰瘍と、周囲の浮腫状粘膜を呈し、CMV感染を伴ったUCの典型像である。

【症例のポイント】

UCの下血時の緊急内視鏡検査では、病勢の悪化を防ぐ意味から過度な前処置を避け、観察も最小限に留めるべきである。観察のポイントは、再燃による出血と他疾患合併による出血の鑑別である。検査時は十分に水洗し血液や粘液を除去した後に観察を行う。UC再燃に伴う出血であれば、炎症の程度や進展範囲まで評価する必要がある。合併症として近年CMV感染を伴ったUCが散見される。その典型像は不整形の打ち抜き様潰瘍と、周囲の浮腫状粘膜であるが、診断に苦慮する症例もあり病理組織学的検索や血液生化学検査も参考にする。

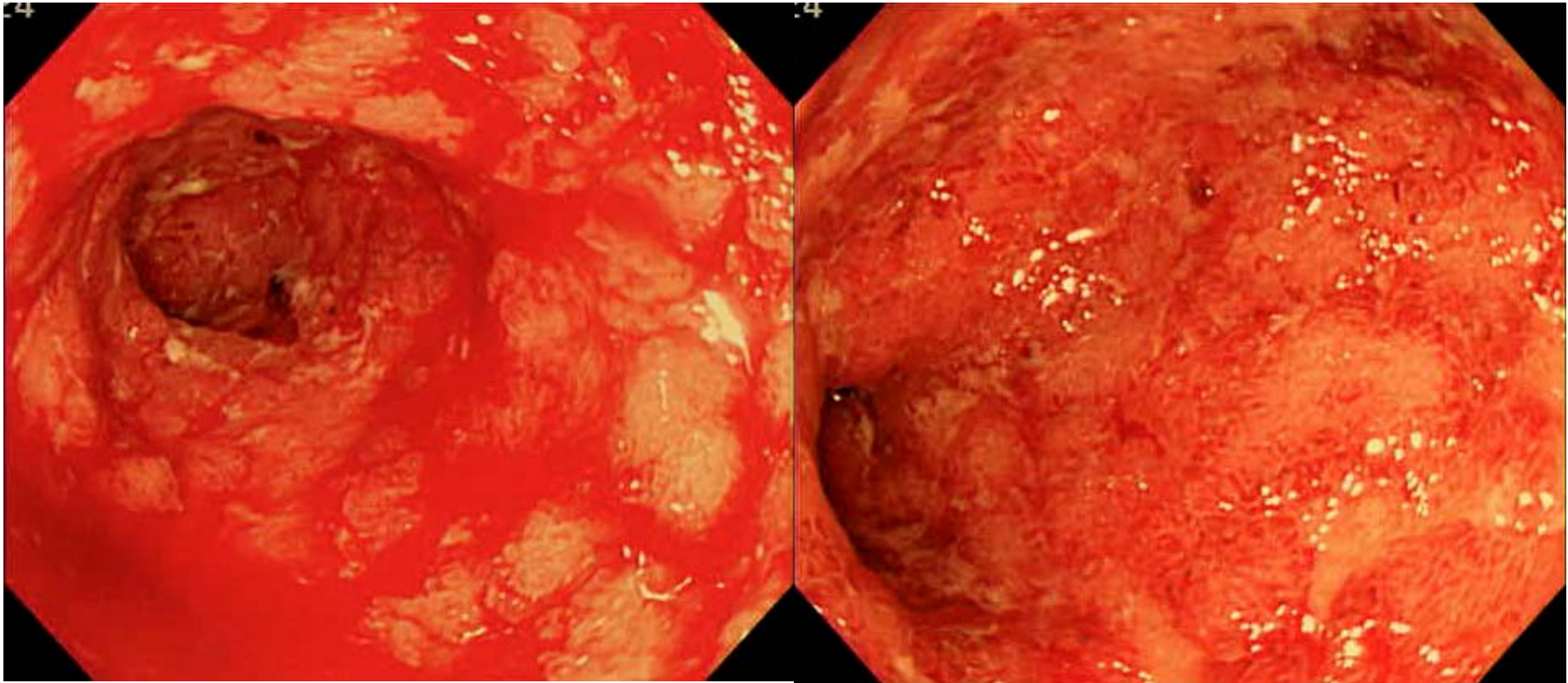
【校正者氏名】 佐藤 龍

【校正送付先】 所属先住所と同様

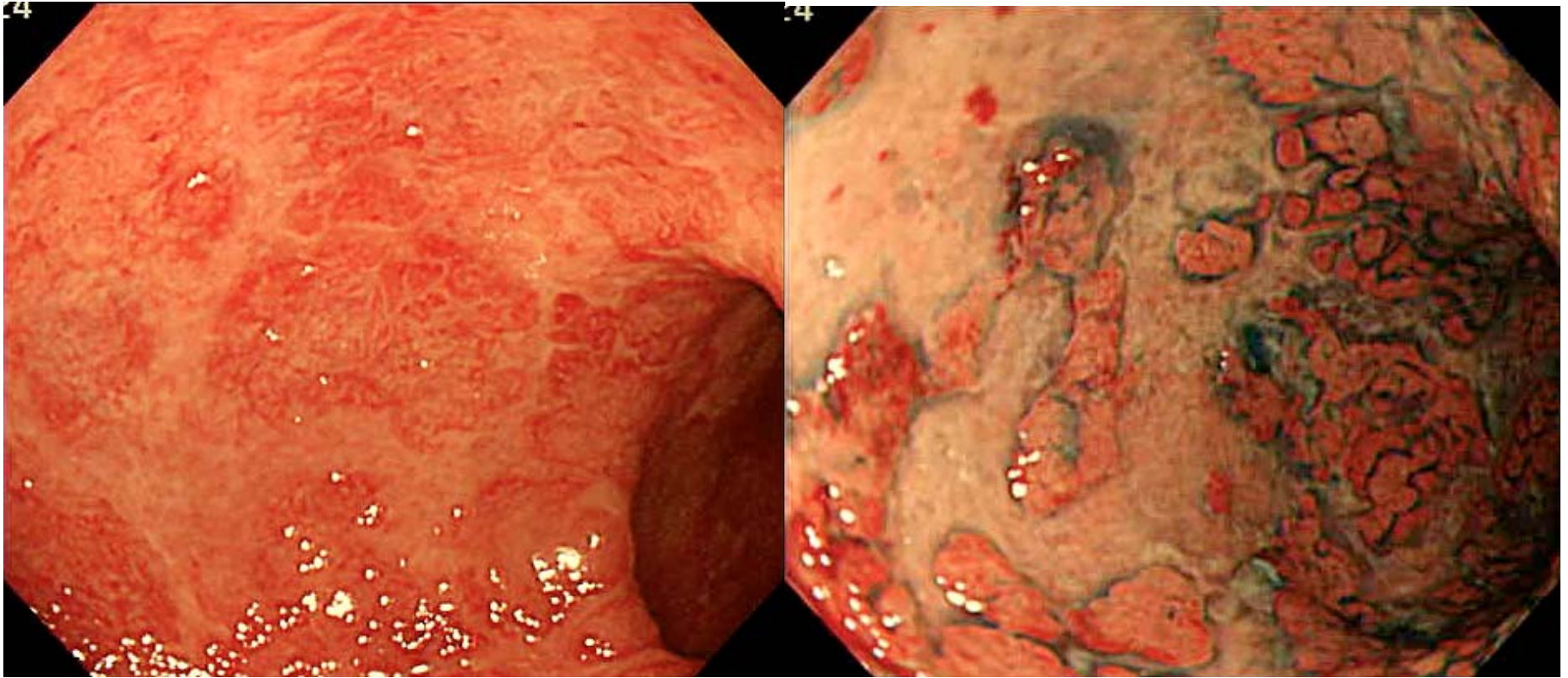
【写真】 8枚

【Key Words】

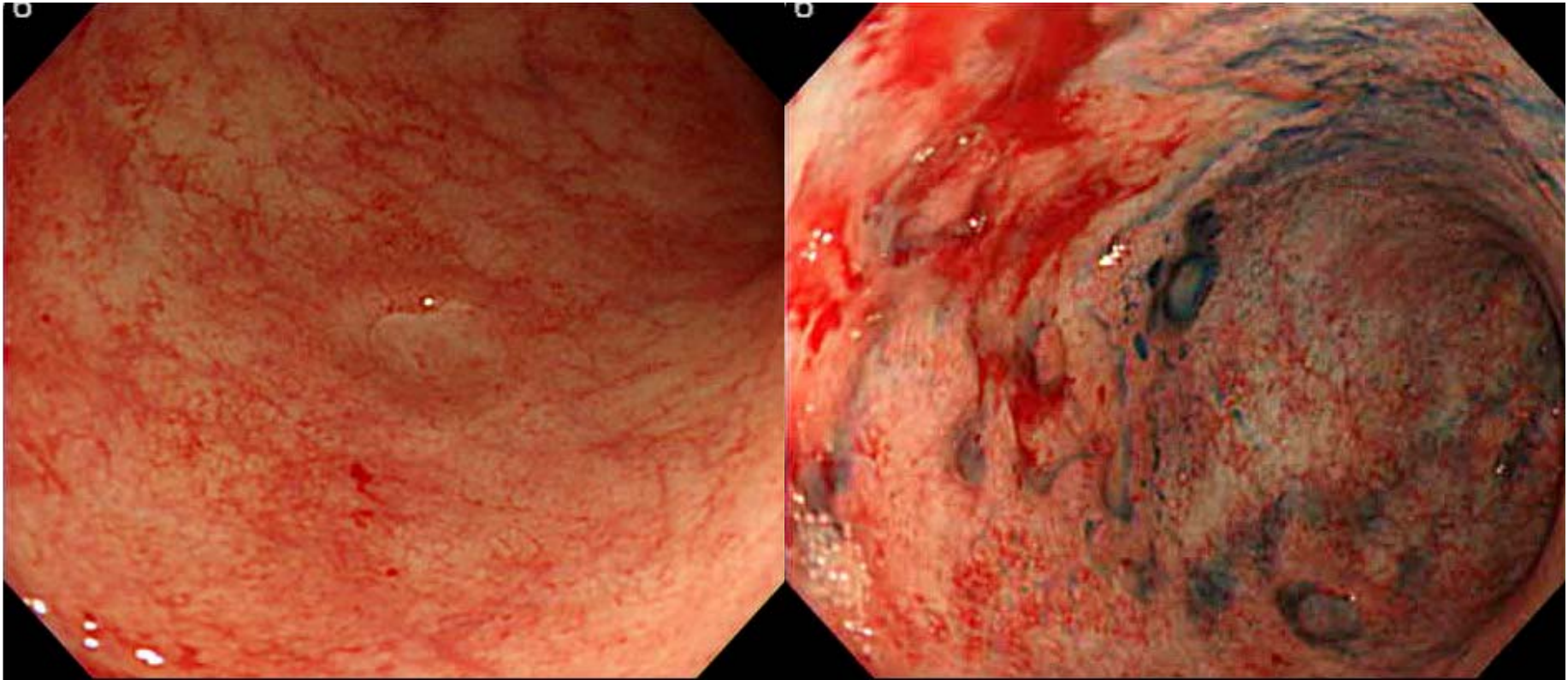
Ulcerative colitis, vein bleeding, oozing bleeding, Cytomegalovirus infection



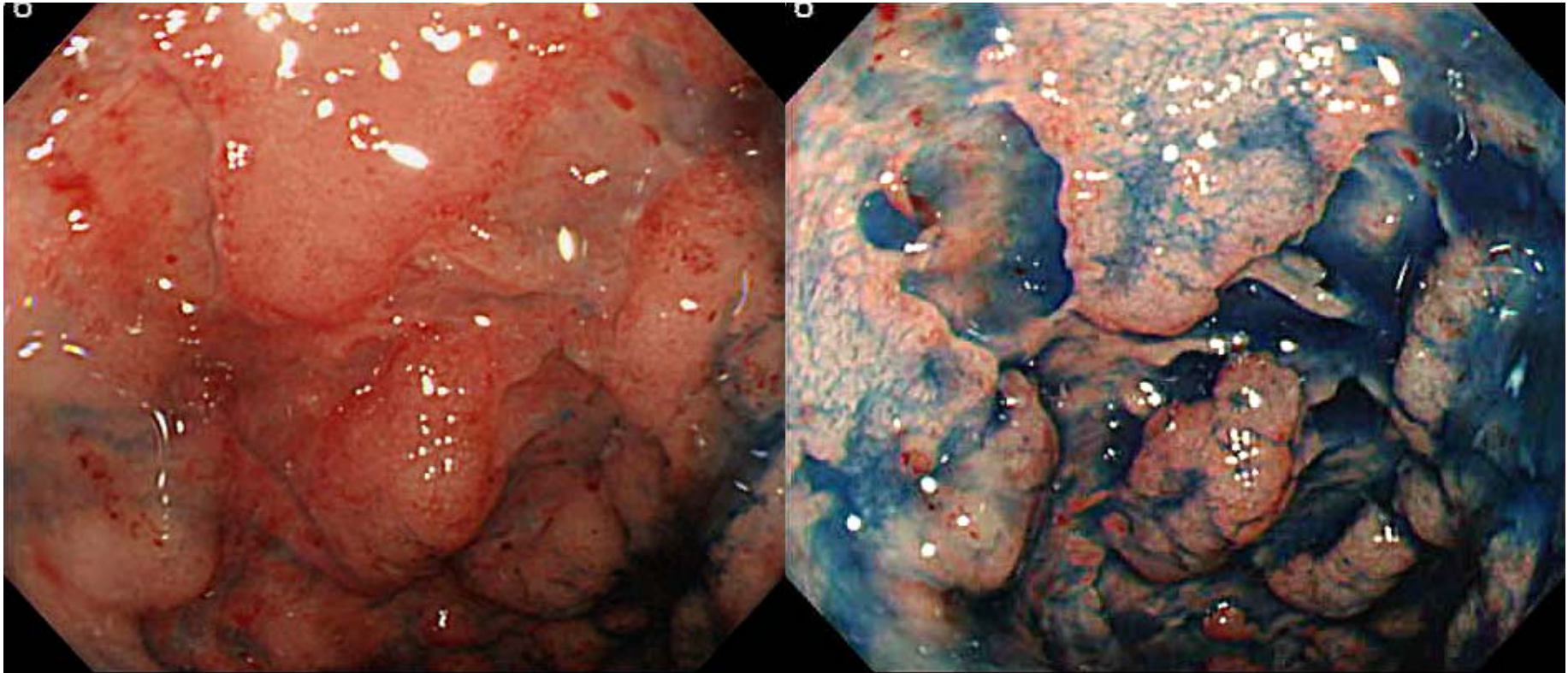
1 a | 1b



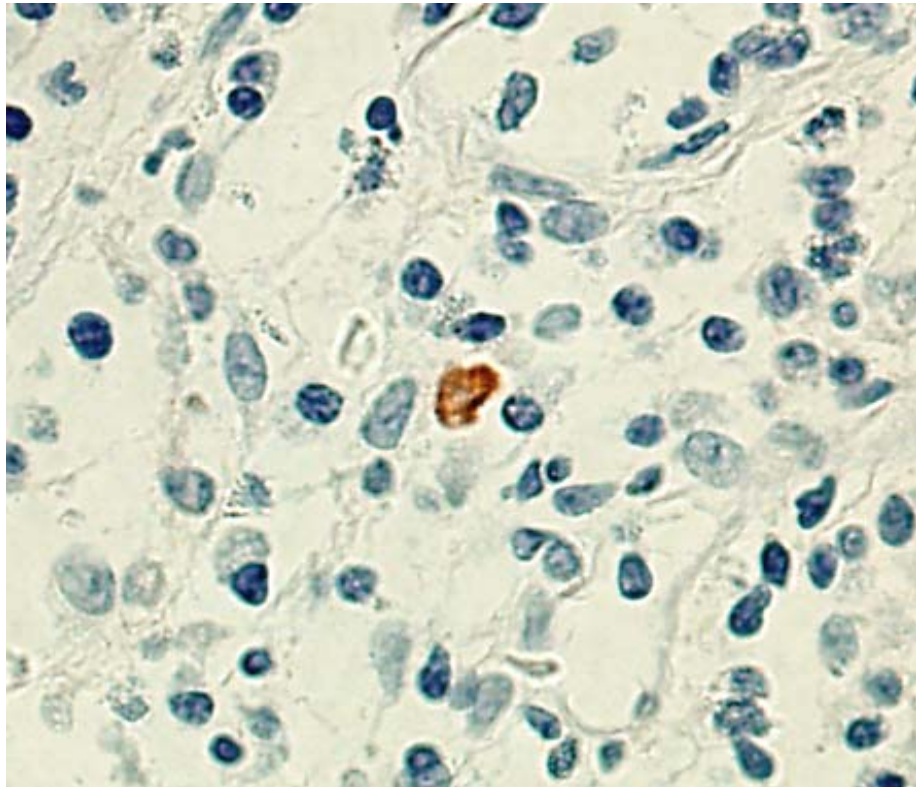
1 c | 1d



2a | 2b



2c | 2d



(× 200)

2e